



学校だより 2月号

令和 5年1月31日

横浜市立洋光台第三小学校

校長 金澤 智美

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai3/>

ふゆ はる つぎ がくねん じゅんぴ
冬から春へ～次の学年への準備～

たかくこうちよう とおや たかし
副校長 遠矢 孝

なぜ冬から春になるときだけが「節分」という言葉として残ったのでしょうか。それは寒さを我慢していた冬から、命が始まる春が来るということで、冬から春への変わり目はとても大切だからです。冬眠していた動物たちは目覚めます。卵で冬を越した生き物は、卵からかえります。草や木も新しい芽が伸びてきます。



そして私たち人間も春は新しいスタートとなります。卒業して中学校に進学したり、上の学年に進級したり、大人は就職して仕事を始めたり、新しい場所に仕事先が替わったりします。だからこの冬から春への節分が大事にされたのです。

さて、2月は暦の上では立春を迎え、春が始まる月です。しかし、1年の中で最も寒い時期でもあります。そんな厳しい寒さに耐え、いち早く花を咲かせ、春の訪れを教えてくれるのが、梅の木です。梅の木には、「好文木」との別名があります。その昔、晋（中国）の皇帝である武帝が学問に親しむと花が開き、怠ると開かなかったという故事から、梅の木が学問を好む木＝好文木と呼ばれるようになったと言われています。また、日本で学問の神様とされる、菅原道真が好んだのが梅の木（花）というのは有名な話です。道真が残した「東風（こち）吹かば 匂ひを おこせよ 梅の花 主なしとて 春な忘れそ」との句にも梅の花を愛していたことがうかがわれます。そのことから、全国の天満宮（菅原道真を祭神とする神社）には、必ず梅の木が植えられています。

冬の厳しい寒さの中、西公園のたくさんの梅の木には、赤い小さなつぼみをたくさん見つけることができました。ゆっくりではありますが、春が近づいているのを感じます。

2月は、その学年で学習する内容が身に付いたかを確かめる、まとめの時期です。冬の寒さに耐え、一生懸命学習に取り組む、次の学年への準備をする子どもたちの姿は、まるで梅の木のように、冬が過ぎ、あたたかな春に鮮やかな花をいっぱい咲かせることができるよう、一日一日を大切に過ごしていけるよう指導していきます。保護者の皆様のご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。